

Title	歯科診断上ニ於ケルX線ノ価値ニ就テ
Author(s)	遠藤, 至六郎
Journal	齒科學報, 14(8): 10-19
URL	http://hdl.handle.net/10130/1571
Right	

た、翻て我日本は未だ學問を以て國民氣風を代表するに至らず之れは大に吾々〳〵の奮討するの覺悟ある事と存じます、尙ほ免疫學の進歩と致しましては凝集反應、沈澱反應コムプレメント結合試験等色々の免疫學研究を申上げねばならぬのでありますが其れは他日に致しまして今日はモ早や御約束の三十分を經過しましたから此れで止めますることに致しますが要するに何せ我〳〵が病を拒ぎ得るかと云ふ事に對しては又齒科醫學領分と存じます口腔細菌學研究者が此の方面に色々研究をして居りまする例之ば北米のミラー、ケトラ、英のマックリンヤング、獨のヤコビー等は無論皆さん方の方が能く御承知の事と存じます、時間がありませんので極めて簡單でありますが此れで御免を蒙ります

◎ 齒科診斷とニ於ケルX線ノ價值ニ就テ

(於同窓會總會) 遠藤至六郎

會員ノ一員トシテ此ノ盛大ナル總會ニ列席スル事ノ出來マシタノハ私ノ身ニ餘ル光榮ト存ジマス
ル次第デアリマス

私ハ是レヨリ此ノ演題ニ就キマシテ少々駄辨ヲ費シタキ考ヘテ御座イマス何卒暫時御清聽アラントヲ希望致シマス

賢明ナル諸氏が既に御承知ノ如ク「レントゲン」線即チX光線ハ千八百九十五年獨逸ノ學者ウキルヘルムコンラツドレントゲン教授ガ或ル研究中ニ偶然ニ發見セラレタルモノデアリマシテ其本態性質等ニ就キマシテハ目下尙ホ遺憾ナガラ不明ニ屬シテ居リマスガ然シ本線ノ發見後幾多ノ學者研究家ガ相次デ之レニ向テ多大ノ研究ヲ行ヒマシタ結果今日ニ於テハ

X線ハ陰極ヨリ出ヅル「マイナス」電氣ヲ帶ビタル電子ガ非常ノ速度ヲ以テ進行シ障害物（硝子壁）ニ衝突シテ急劇ニ抵止スル時ニ生ズル電力及ヒ磁力ノ弧波デアル

ト云フ說ニ略ボ歸着シテ居リマス

此ノ現象ハ恰モ吾人ガ水面ニ礫石或ハ木片等任意ノ物體ヲ投下スル際ニ（一定ノ速度ヲ與ヘテ）其ノ物體ガ水面ニ接觸シタ點ヲ中心トシテ周圍ニ向テ圓形ニ水波ヲ生ズルト同一ナル理由ニ依ルモノト考ヘマス

而シテX光線ハ陰極ヨリ出ヅル陰極光線 Cathode Rayノ如クマグネットノ爲ニ在來ノ方向ヲ變換セラル、 Γ ガ決シテアリマセン故ニ陰極線ノ如ク電子ノ流レデナイ事ガ明白デアリマス

亦X光線ハ吾人ガ如何ナル方法ヲ以テスルモ決シテ屈折、反射ノ二大現象ヲ起サシムル Γ ガ出來ナイ故ニX光線ハ光波ノ如キ「エーテル」ノ連續的波動デナイ Γ ガ明白デアリマス從テ此ノX光線ハ眞ノ光線デナイト云フ Γ ニ歸着致シマス

是レ等ノ理由ニヨリ現今ニ於キマシテハ單ニX線或ハ發見者ノ名稱ヲ冠シ「レントゲン」線ト稱スル方ガ正當デアルト云フコトニナツテ居リマス

ソレカラX線ハ以上述べマシタ外尙ホ次ノ如キ四ツノ特性ヲ有シテ居リマス即チ

一、物體ヲ透過スルコト

(但シ其ノ透過力ハ物體ノ密度ニ反比例ス)

二、X線ハ肉眼ヲ以テシテハ之レヲ認識スルコト能ハザレモ「シアン」化白金「バリユウム」或ハ「シ

アン」化白金加留膜ヲ塗布シタル板ニ當ル時ハ之レニ螢光ヲ放タシムルコト

三、寫真作用ヲ有スルコト

四、直線進行ヲナスコト

テ是レ等ノ特性ヲ利用シ現今醫學社會ニ於テハ或ハ診斷ニ或ハ療病的方面ニ盛シニ應用セラレツ、アリ亦實際ニ於テ大ナル裨益ヲ與ヘテ居ルコトデゴザイマス

例之ヲ申シマスレバ内科ニ於テハ腸内ニ於ケル大便ノ位置ノ検査(但シ此ノ場合ニハ前以テ「ビスミット」ヲ多量ニ内服セシムルコト勿論ナリ)ノ如キ軍陣外科ニ在リテハ銃丸等ノ位置ノ検査ノ如キ其ノ他種々ナル場合ニ此ノX線ヲ用ヒテ確實ニ診斷シ得從テ完全ニ手術ヲ施行シ得良好ナル結果ヲ得マシタ等ノコトハ殆ンド枚舉ニ遑アラザル様デアリマス

而シテ我ガ齒科ノ領域ニ於テモ亦此ノX線診斷法ニ依テ通常ノ諸種ノ診斷法ニテドーシテモ診斷スルコトノ出來ヌ症デモ最モ容易ニ僅々七十秒位デ確診シ得從テ良好ナル結果ヲ收ルコトノ出來得ル症ガ甚ダ少クナイノデアリマス

然ラバドノ様ノ諸病ノ診斷及療法ノ目的ニ應用シ得ルカト申シマスト米國ノサツターリー氏 *Sutter* 〇二〇〇ガ千九〇六年三月ノ「コスモ」誌上ニ公ニセラレタ論文ニ依リマスト大約次ノ如キ場合デゴザイマス

一、齒槽膿瘍及齒根膜炎

二、骨疽

三、充填物ノ缺損

四、根ノ位置及其ノ外形並ニ根管ノ検査

五、未發生齒及埋沒齒ノ位置方向形狀検査

六、過剩齒ノ位置検査

七、根管內ニ於テ破碎セル探針類及其ノ他ノ器具検査

八、其他根管內ニ於ケル諸種ノ異物（例之齒髓中ニ含マンテ居ルコトノアル結石等モ亦診査シ得）

九、ハイモール氏洞「エムピエーム」診斷

十、齒槽膿漏(齒槽内ニ於ケル病機ノ進行程度等)

十一、顎骨々折

十二、「エプリス」

十三、諸種ノ腫瘍ノ診斷及療法トシテ用フ

斯ノ如ク大凡ソ十三項ニ分テサ氏ハ論ゼラレ尙其結末ニ附記シテ云ハル、ニハ此ノ他、用タル症ガ枚舉ニ違アラザル程デアルト云ハレテ居リスルガ之レハ理論カラ行キマスト成程ト思ハレマスガサテ實際ニ私ノ昨年三月以降本年三月末ニ至ル約一ケ年二十例ノ研究ニ依リマスト勿論私ノ經驗ガ足リナイ者デアリマシヨウガ中々以テサ氏ノ云ハレル様ニ齒根膜炎及膿漏等ニハ實際ウマク參リマセン

ツマリ二十例ニ對スル研究ニ依リマスト奏功確實所謂神ノ如シトデモ申シマヌル場合ハ

一、埋沒齒ノ診斷

二、未發生齒ノ診斷

三、蓄膿症ノ診斷

四、膿瘍及根ノ方向測定

五、根管內異物ノ發見根管充填ガ完全ニ施行セラレタリヤ否ノ診査ノ場合

等デアリマス(療法トシテハ未ダ一回モ使用セシナシ)

デ此ノ五項ノ中デモ所謂齒科診斷上ニ於ケルX線ノ眞價値ヲ認メ得ル場合言ヲ換ヘテ申シマシレバナル程齒科診斷上ニX線ヲ應用スレバコンナ大ナル利益ガアルト云フコトヲ最モ適切ニ深ク吾人ノ腦ニ印像シ得ル場合ハ

第一 埋没齒未發生齒ノ診斷

第二 根ノ方向測定及ハイモール氏洞ト齒根トノ接觸ノ關係ヲ診斷スル場合

デアロート私ハ深ク信ジテ疑ハナイノデ御座イマス

何トナレバ其ノ他ノ場合ニハ概ネ他ノ比較的簡單ナル診斷法ニ熟達セル技倆ヲ加味スレバ優ニ豫期ノ好果ヲ得ルコトガ決シテ不可能デナイト信ジマス故デアリマス

ソレカラX線ノ診斷法デアリマスガコレハ至極簡單ノモノデゴザイマス

即チX線診斷ハ一般ニ必ズ暗室ニ於テ行フモノデアリマシテ次ノ如キ順序デヨロシイノデス

I X線ヲ放射スル眞空球

II 患者

III シアン化白金「バリユウム」ヲ塗布シタル「シルム」

注意或ハ第三位ニ「シルム」ノ代リニ寫眞ノ乾板ヲ置クキハ乾板ハ可檢物ヲ通過シ來リタルX線

ノ感應ヲ受ケテ茲ニ寫眞ノ原板ヲ生ズ

IV 主任術者

尙ホ補助術者一名ヲ必要ト致シマス

補助術者ノ任務ハ電流及抵抗ノ調節等凡テ術者(主任)ノ命ヲ受ケテ事ニ從フノデアリマス

一般ニ埋沒齒未發生齒等ノ位置、方向、數等ヲ探究シ後チ其ノ外科的手術ヲ行ハントスル場合ニハ必ズ先ヅ「シルム」ヲ以テ一應齒牙ノ數、位置、方向、根ノ數及形態、周圍骨組織トノ關係ヲ詳細ニ診査シ其ノ確實ナルコトヲ認メタル後チ「シムル」ノ位置ヲ善ク記憶シ置キテ「シルム」ヲ除去シ其原部位ニ出來得ル限リ方向、角度等ヲ違ハザル様ニ寫眞ノ乾板ヲ置カナケレバ主要自的タル齒ノ位置方向等ガ飛ンデモナキ方面ニ影取サレ時ニ依リテハ長キ齒ガ短形ニ長方形ガ卵圓形ニ二根ガ一根ニ犬齒部ノ埋沒齒ガ前齒ニアル様ニナツテイザ手術トナツテ骨等ヲ破壞シテ始メテ其ノX線寫眞ノ影取方法ガ惡カツタト云フコトヲ發見シX線寫眞影取ノ目的ノ大半ヲ水泡ニ歸スル様ノコトガ出來致シマス

只今茲ニ私ノ持參致シタ寫眞ノ上顎左側々前齒ノ方ハ影取法ヲ違ツタ爲ニ鼻翼部ニ埋沒シタ齒ガ口蓋部ニ影寫サレテ居ル様ノ次第デアリマス御一覽ヲ願ヒマス

更ラニ御瞭解シ易キ様ニ條項的ニ御話シ致セバ

一、凡テノ準備調ヒシナラバ補助術者ヲシテ電氣燈ヲ滅セシメ次デ電流ヲ真空球内ニ通ゼシム

二、然スレバ「レントゲン」線ハ盛ンニ發生スル結果トシテ「シルム」面ニ目的物(例之埋沒齒)ハ其ノ周圍組織ト共ニ最モ明瞭ニ現出ス

三、茲ニ於テ補助術者ヲシテ再ビ電燈ヲ點セシメ同時ニ真空球ニ送ル電流ヲ斷テ豫メ暗室外ニ用意シ置キタル乾板(黑色紙ヲ以テ二重ニ包裝シ若シ口腔内ヨリ影取スル場合ニハ尙其ノ上面ヲ油紙ヲ以テ包ムベシ)或ハ「ヒルム」(イーストマン會社)ノ最モ感應鋭敏ニシテ良)

ヲ暗室内ニ持テ來タシ「シルム」ノ原位ニ置キ

四、更ラニ補助術者ヲシテ電流ヲ通セシメ二十秒—八十秒ニシテ止ム

後ノ乾板ノ所置即チ現像法等ハ通常ノ寫真ト毫モ變リガアリマセンツマリコレデX線寫真ガ出來上ル譯デアリマス

此ノ時間ノ二十秒乃至八十秒ト云フノハ上顎下顎ニ依テ差違ガアルノデゴザイマス即チ上顎ノ場合ニハ大凡ソ二十秒乃至四十秒下顎ノ場合ニハ四十秒乃至八千秒デナケレバウマク參リマセン

只今御覽ニ入レマシタ寫真ノ中、上顎左側中前齒ノ寫真ハ百十「ツォルト」ノ強サデ時間ハ四十秒距離ハ十八「センチメートル」デ取りマシタモノデ此ノ患者ハ昨年福岡カラ態々治療ノ目的ヲ以テ上京シタルモノデアリマシテ既往症等ノ概略ハ御參考迄ニ一寸申上マス

患者男性 姓名KN 職業學生 年齡二十一歲

幼時麻疹ヲ經過セルノ他著患ヲ覺ヘズ

本症ノ初發ハ約一年前突然左側鼻翼下部ニ當テ微痛ヲ感ジタルモ左シタル苦痛ナキヲ以テ放任シ置キタルニ日ヲ經ルニ從ヒ漸時劇痛トナリ約三ヶ月後ヨリハ上顎左側々前齒大齒部ヲ中心トシ定時性放散性ノ疼痛トナリ時ニ視力障害ヲ隨伴シ困難尠カラサルヲ以テ某醫ノ診ヲ乞ヒシニ齒科醫ノ診ヲ乞フヲ得策ナリト言ハレシ故ニ更ラニ某齒科醫ノ診ヲ乞ヒシニ齒科醫ハ側前齒ノ磨耗症ニ因スル三叉神經痛ナリ金冠ヲ裝置シ外來ノ刺戟ヲ遮斷セバ治癒スルコト火ヲ視ルヨリモ明ナリ云々即チ齒科醫ノ言フガ儘ニ側前齒ニ金冠ヲ裝置シタリ即チ寫眞ニ他ノ齒冠部ヨリ濃ク見ユルモノガ金冠デアリマス然シナガラ神經痛ノ發作ハ其後依然トシテ起リ毫モ治癒ノ傾向ヲ示サズ苦痛堪ヘガタキヲ以テ上京シ或ル人ノ紹介ニテ小生ノ診ヲ乞フコトナリマシタノデゴザイマス

テ私ハ種々ト原因ノ探究ヲ試ミマシタガドーモ別ニ原因ト認ムルモノガナイ

ソコデ或ハ埋沒齒ガアリハシナイカト思ヒ齒數ノ検査ヲヤリマシタ處ガ幸カ不幸カ中前齒一個ヲ缺如致シテ居リマシタデ私ハ或ハ中前齒ガ埋沒シテ居テソレガ神經ヲ壓迫シ以テ神經痛ヲ起スノデハナカローカト思ヒX線寫眞法ヲ應用診斷致シマシタ處ガ此ノ寫眞ノ如ク立派ニ埋沒シテ居ルコトガ明カニ寫リマシタ

依テ

ノゾオカイン

二・〇

安知必林

一・〇

食鹽

〇・九

鹽化アドレナリン

(千倍液) 三十滴

清水

一〇〇・〇

ノ注射液一筒ヲ上顎神經叢ノ部ヘ注射致シ十五分後法ノ如ク骨膜ヲ剝離シ周圍ノ骨ヲ乳嘴突起用「マイセル」ヲ用ヒテ破壊シ埋没中齒前ヲ拔去致シ創口ハ法ノ如ク所置シ約三十日ノ後チ創口ハ立派ニ治癒致シ義齒ヲ製作シテ與ヘマシタ

其ノ後本日迄約八ヶ月經過致シマスガ神經痛ヘ更ラニ起ランソードゴザイマス患者ハ度々手紙ヲ寄セマスガ毎々發作セザルコトヲ述ベテアリマス

此外是レニ類シタ患者ハ十數名ゴザイマスガ餘リ長クナリマスカラコレデ御免ヲ蒙リマス只一寸一例ヲ申上ゲテ埋没齒等ニハX線診斷法ガ最モ有功確實デアルコトヲ述ベマシタ次第デゴザイマス